日本のがん検診は諸外国ほど効果を上げていない

（公益財団法人福井県健康管理協会　がん検診事業部長　松田　一夫）

がん統計 2022 によれば，日本人男性の 65%，女性の 50%が生涯にがんに罹り，男性の 27%，女性の 18%ががんで死亡します。
がん死亡を減らす有力な手段ががん検診です。日本では，胃がん，肺がん，大腸がん，子宮頸がん，乳がん 5 つのがん検診が行われていますが，世界的に広く行われているのは，このうち子宮頸がん，乳がん，大腸がんの 3 つです。

日本では，がん検診の受診率を正確に把握するシステムがないため，3 年に 1 度行われる国民生活基礎調査（約 30 万世帯の 72 万人を抽出したアンケート調査）で受診率を算定しています。2019 年の調査では，69 歳以下における 3 つのがん検診受診率はいずれも 40%台にとどまっています。

がん検診は，
がん死亡率を下げるための有力な手段

世界的に広く行われているがん検診は
①子宮頸がん検診
②乳がん検診
③大腸がん検診

国民生活基礎調査による日本のがん検診受診率
（2019年，69歳以下）

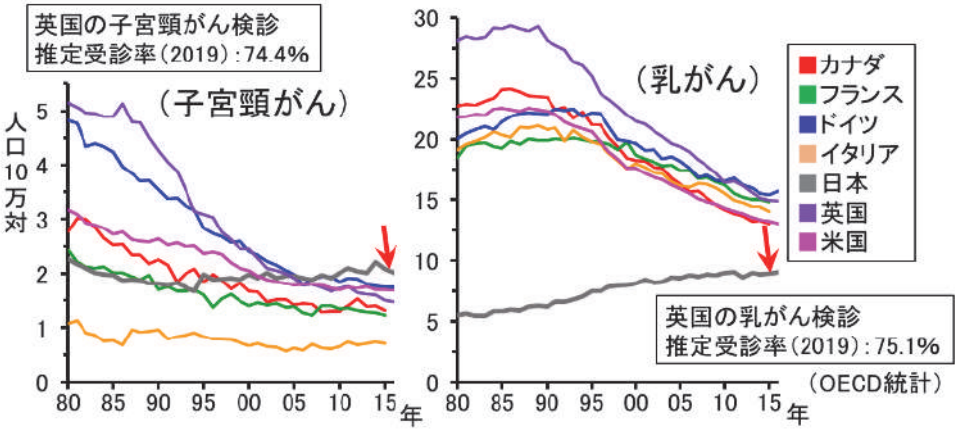
	子宮頸	乳	大腸
対象年齢，受診間隔	20歳以上，2年に1回	40歳以上，2年に1回	40歳以上，1年に1回
受診率	43.7%	47.4%	44.2%

がん検診の効果は死亡率減少の有無で判定します。がん死亡は加齢とともに増えますので，がん検診の効果をみるためには，年齢構成を揃えた年齢調整死亡率で諸外国と比較します。
子宮頸がん，大腸がんの年齢調整死亡率は，日本が G7 の中で最悪です。
日本の乳がん死亡率は現時点では諸外国より低いものの，今なお増加し続けていますので，早晩，日本が他の先進諸国を追い越す可能性があります。

その原因の一つは，日本におけるがん検診受診率の低さです。たとえば英国のがん検診受診率は，子宮頸がん，乳がん，大腸がんともに 70%を超えており，40%台にとどまる日本とは大違いです。

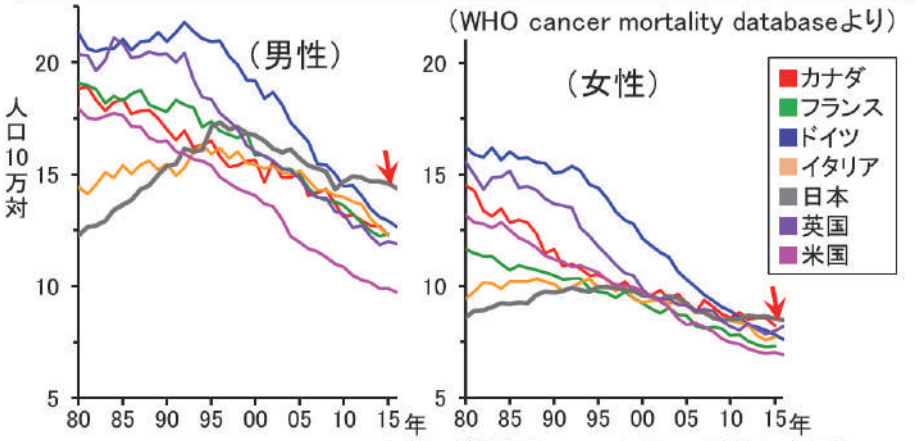
G7における年齢調整 子宮頸・乳がん死亡率の年次推移

（WHO cancer mortality databaseより）



G7における年齢調整大腸がん死亡率の年次推移

（WHO cancer mortality databaseより）



ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ（英国）の2021年第1四半期の受診率：69%

年齢構成を揃えて諸外国と比較すると，

日本の **年齢調整死亡率は**

①子宮頸がん：日本がG7で最悪
②乳がん：日本の乳がん死亡率はG7でもっとも低いが，増加し続けており，諸外国より高くなる可能性がある
③大腸がん：日本がG7で最悪

日本のがん検診は

受診率が低く，諸外国ほどの効果を発揮していない！

→→皆様，がん検診をお受けください。

がんで命を落とさないために，是非，がん検診をお受けください。
ただし，がん検診も完璧ではありません。
そのため，がん検診を受ける際には

①決められた間隔で定期的に受けること
②がん検診で「要精検」と判定されれば，必ず精密検査を受けること
③がん検診で「異常なし」であっても，検診後に自覚症状が出現した場合には，医療機関で検査を受けること　が　重要です。